

# 2020年度(第17期)事業計画

説明資料



2020年3月 東京地下鉄株式会社

## 目次

■ 中期経営計画 東京メトロプラン2021	P03
■ 2020年度事業計画のトピックス	P04
TOPICS 1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその先に向けた主な取組み	P05
TOPICS 2 自然災害対策	P08
TOPICS 3 虎ノ門ヒルズ駅開業	P09
TOPICS 4 『my! 東京MaaS』始動	P10
■ 安心の提供	P11
■ 駅ホームの安全性向上、セキュリティの強化	P12
■ 新型車両の導入	P13
■ 輸送サービスの改善	P14
■ バリアフリー設備整備	P15
■ 利便性・快適性の向上	P16
■ 持続的な成長の実現	P17
■ お客様ニーズをとらえた取組み	P18
■ 関連事業の拡大	P19
■ 海外での事業展開、新規事業の創出・推進、新技術の開発・導入	P20
■ 東京の魅力・活力の共創	P21
■ まちづくりとの連携、オープンイノベーションの推進	P22
■ 経営基盤の強化	P23
■ 経営基盤の強化	P24
■ 2020年度設備投資予算	P25

中期経営計画「東京メトロプラン2021」（2019年度～2021年度）に基づき、「安心の提供」「持続的な成長の実現」「東京の魅力・活力の共創」の3つのキーワードを柱に、各種施策を積極的に推進するとともに、東京2020大会の成功とその先の東京の発展に貢献します。

「安心=安全+サービス」の考えのもと、優れた技術力と創造力により、安全で快適な世界トップレベルの輸送サービスを提供していきます。

積極的な事業展開や新技術の開発・導入によって収益基盤を強化し、将来にわたる持続的な成長を実現していきます。

地域や外部との積極的な連携を通じて、東京2020大会の成功につなげるとともに、その先の東京の発展も見据え、都市としての魅力・活力の創出と東京に集う人々の生き生きとした毎日に貢献していきます。



●東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)です。

## 2020年度事業計画のトピックス

### TOPICS 1

#### 東京2020 オリンピック・ パラリンピック 競技大会と その先に向けた 主な取り組み

～東京が一番かがやく夏に、私たちがご案内します。～

東京2020大会に  
多くのお客様をお迎えするにあたって、  
東京メトロでは様々な施策を着実に進めてきました。

全社一丸となって、  
円滑な大会輸送と東京2020大会の成功に貢献します。

P05

～

P07



### TOPICS 2

#### 自然災害対策

お客様の安全確保を第一に、  
避難誘導をはじめ、大規模浸水対策、震災対策等、  
ハード・ソフト両面で更なる自然災害対策を進め、  
首都東京の都市機能を支えます。

P08



### TOPICS 3

#### 虎ノ門ヒルズ駅開業

2020年6月6日（土）、  
新たに日比谷線虎ノ門ヒルズ駅を開業し、交通結節機能の強化を  
図ります。

P09

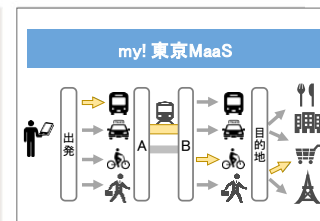


### TOPICS 4

#### 『my! 東京MaaS』 始動

大都市型MaaS『my! 東京MaaS』により、  
多種多様な価値観と文化があふれる東京に集う  
一人ひとりの移動・ビジネス・生活を支え、  
都市の活力を高めます。

P10



# TOPICS 1

## 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその先に向けた主な取組み

### 東京2020大会における東京メトロの取組み

～東京が一番かがやく夏に、私たちがご案内します。～



東京メトロは、開催都市の機能を支える交通事業者として、全社一丸となり大会の成功に向けて準備を進めています。各種施策をより一層強化し、円滑な大会輸送と東京2020大会の成功へ貢献していくとともに、その先のさらなる東京の発展に寄与するべく、先々引き継がれるレガシーを築いていきます。



©Tokyo2020

#### ■ 東京2020大会に向けたこれまでの経緯

2013年9月	「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催地が東京に決定
2013年10月	東京2020大会の開催決定を受け、社長を推進本部長とする「東京2020オリンピック・パラリンピック対策推進本部」を設置
2013年12月	推進本部で策定した基本方針に基づき「安心・サービス等の総点検」を開始
2014年9月	安全・サービス等の総点検の結果を踏まえ「東京メトロ“魅力発信”プロジェクト」を策定
2016年6月	東京2020大会のオフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)に決定
2018年4月	東京2020大会への推進体制を強化することを目的に「オリンピック・パラリンピック推進室」を設置
2019年3月	東京2020オリンピック大会期間中の輸送サービスの概略を公表

#### (参考) 1964年大会と2020年大会における比較

輸送状況の比較	営団 (1964東京大会時点)	東京メトロ (東京2020大会時点)
路線数	3路線(銀・丸・日)	9路線 (東京2020大会時点)
営業キロ	62.0キロ	195.0キロ (東京2020大会時点)
1日平均輸送人員	170万人	758万人 (2019.3月末時点)
駅数	66駅	180駅(東京2020大会時点) (2020.6開業予定の虎ノ門ヒルズ駅含む)

●東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)です。

# TOPICS 1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその先に向けた主な取組み

## 東京2020大会に向けた取組み

東京メトロは2014年9月に公表した東京メトロ“魅力発信”プロジェクトに掲げる3つのコンセプトに基づいて各種施策を着実に進めています。

### Keyword 1 世界トップレベルの安心でお出迎え

#### 自然災害対策 ▶ P.8



▲完全防水型出入口

#### 【駅出入口浸水対策】

洪水等の大規模な水害に備え、  
浸水対策工事を推進

#### ホームドアの整備 ▶ P.12



▲ホームドア（千代田線）

#### 【ホームドア整備率】

2013年度末：47%  
→2020年7月末時点：79%

#### セキュリティの強化 ▶ P.12



▲画像認証機能を活用した検知機能の搭載

#### 【実施中のセキュリティ対策】

- ・駅構内セキュリティカメラの更新・増設
- ・車内セキュリティカメラの設置拡大
- ・画像認証機能を活用した検知機能の搭載

#### エレベーターの整備 ▶ P.15



▲エレベーター（青山一丁目駅）

#### 【エレベーター1ルート整備率】

2013年度末：78%  
→ 2020年7月末時点：98%

#### トイレの洋式化・多機能トイレの整備



▲トイレ洋式化・多機能トイレ整備（外苑前駅）

#### 【トイレ洋式化】・ 【多機能トイレ整備率】

→ 2020年7月末時点：100%

### Keyword 2 地下鉄をわかりやすく快適に

#### ご案内の強化 ▶ P.16

駅構内：全駅整備完了  
車両内：2020年7月末までに東京メトロ所有の全編成・全車両への整備完了



災害等異常時においても  
多言語での表示を実施

2013年度末：4箇所→ 2020年7月末時点：7箇所 多言語表示

●東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー（旅客鉄道輸送サービス）です。

### Keyword 3 沿線地域との連携、東京を楽しく

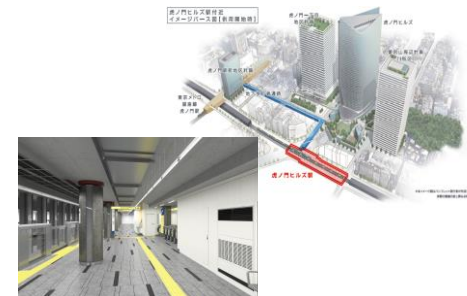
#### 会場最寄駅の改良



▲外苑前駅2番出入口

外苑前駅等の会場最寄駅を中心に  
リニューアルします。  
→ 2020年7月末時点：  
計9駅リニューアル完了

#### 日比谷線虎ノ門ヒルズ駅整備 ▶ P.9



▲開業時北千住方面行き  
ホームイメージ

2016年2月に着工し、新たな交通結節点として2020年6月6日（土）開業

# TOPICS 1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその先に向けた主な取組み

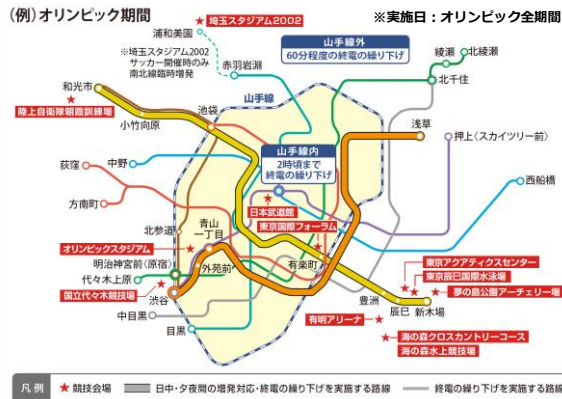
## 大会期間中の対応

列車の増発・終電の繰り下げや、警戒・警備の実施等によりご案内の充実を図ります。TDM※の推進、大会の盛り上げの創出に取り組み、東京2020大会の成功に貢献します。

### 輸送対応

列車の増発

終電の繰り下げ



### ご案内の充実・セキュリティ向上

新制服によるご案内



駅社員・警備員等の増配置

東京2020大会ルックや東京2020スポーツピクトグラムを活用した案内サインの設置

TOKYO 2020  
(東京2020大会ルック)



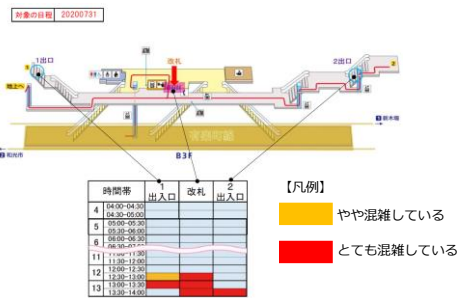
(東京2020スポーツピクトグラム)

### TDM※の推進

東京2020大会会場最寄駅でのメトボを活用したプロジェクトの実施



#### 会場最寄駅の混雑予想情報



▲イメージ

### 大会の盛り上げに向けた気運の醸成

駅・車両のドレッシング (東京都との連携施策)



駅案内スタッフが東京2020大会ルックを活用したウェアを着用



▲イメージ

※東京都・内閣官房・東京2020大会組織委員会が事務局となり進める、東京2020大会の円滑な大会運営・輸送の実現と、経済活動の維持との両立を図るため、混雑緩和を目指す取組み。  
 ●東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)です。

## TOPICS 2

### 自然災害対策

お客様の安全確保を第一に、ハード・ソフト両面で更なる自然災害対策を進め、首都東京の都市機能を支えます。

#### 異常時の体制強化

- 自然災害発生時には、お客様の安全確保を第一に避難誘導を実施します。また、運転再開までの時間の短縮や地下鉄施設の被害抑制等を図るべく、異常時対応訓練の実施やタイムラインの拡充を図ります。
- 安全かつ適時・適切にお客様をご案内できるよう、多言語対応を含め、異常時の情報提供を拡充します。



▲異常時対応訓練の様子

2020年度  
自動旅客案内装置 異常時4言語対応  
(日・英・中・韓)  
全駅リニューアル完了予定



▲自動旅客案内装置

#### 震災対策

- 首都直下型地震等に備え、震災発生時にも早期の運行再開ができるよう、高架橋柱の補強を完了します。また、地下部のトンネル中柱に対してもさらなる補強を行います。

2019年度  
丸ノ内線石積み擁壁補強完了

2020年度  
高架橋柱補強完了予定

#### 大規模浸水対策

- 対策が必要な全ての駅出入口のほか、坑口、地上駅、変電所等への浸水対策を推進します。
- 総合指令所から既設防水ゲートの遠隔操作を可能にします。

浸水対策前



浸水対策後



2027年度  
設備の早期復旧に向けた浸水対策完了予定

#### 大規模停電対策

- 停電によって列車が駅間に停止した場合でも、最寄駅までの走行が可能となるよう、非常用走行バッテリーの新型車両への搭載を丸ノ内線で推進します。
- その他の路線についても、最寄駅までの走行が可能となるよう、変電所への非常用走行バッテリーの設置準備を進めます。



▲非常用走行バッテリー搭載車 (イメージ)

2018年度  
銀座線搭載完了

2023年度  
丸ノ内線新型車両搭載  
完了予定



# TOPICS 3

## 虎ノ門ヒルズ駅 開業

2020年6月6日（土）、  
新たに日比谷線虎ノ門ヒルズ駅を開業し、交通結節機能の強化を図ります。

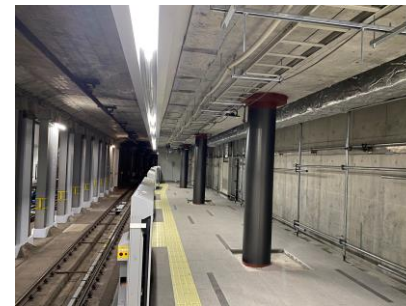
- 独立行政法人都市再生機構から当社が工事を受託している日比谷線新駅「虎ノ門ヒルズ駅」を2020年6月6日（土）に開業します。
- 周辺再開発ビルやBRTに接続するとともに、銀座線虎ノ門駅との乗換えも可能にすることで、交通結節機能の強化を図ります。
- 虎ノ門ヒルズ駅においては、最新のデジタル施策を導入し、ご案内の充実を図ります。



▲虎ノ門ヒルズ駅サインイメージ



▲開業時北千住方面行ホームイメージ



▲ホーム（軌道内）工事（2020.3月時点）



▲所在地

虎ノ門ヒルズ駅に  
導入予定の  
デジタル施策



▲案内ロボットイメージ



▲サイネージイメージ

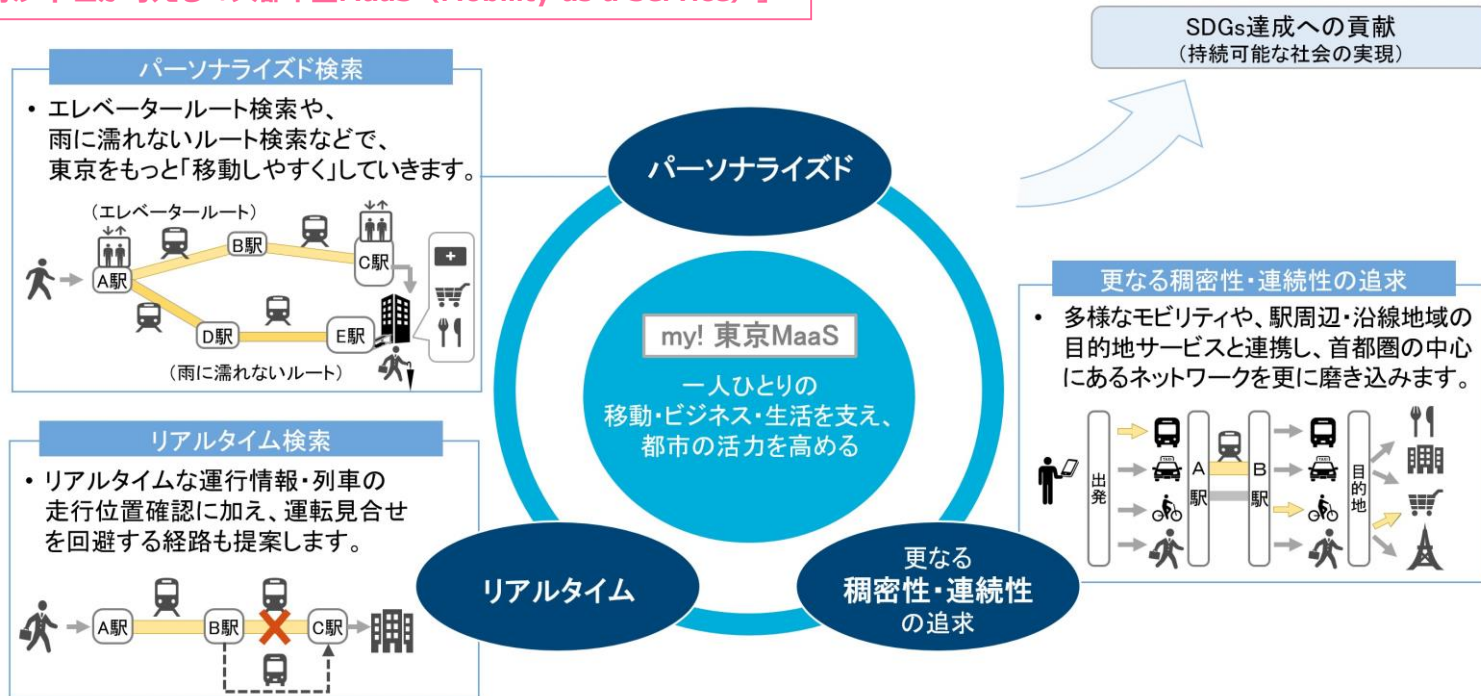
# TOPICS 4

## 『my! 東京MaaS』 始動

「パーソナライズド」「リアルタイム」「稠密性・連続性」をキーワードに、  
大都市型MaaS『my! 東京MaaS』に取り組みます。

- 当社が考える大都市型MaaS『my! 東京MaaS』は、首都圏の中心にある地下鉄ネットワークを磨き込むとともに、「パーソナライズド」、「リアルタイム」、「更なる稠密性・連続性の追求」をキーワードとし、多様なモビリティやサービスと連携しながら、東京に集う一人ひとりの移動・ビジネス・生活を支え、都市の活力を高め、さらには移動需要の創出を目指します。

### 東京メトロが考える「大都市型MaaS (Mobility as a Service)」



**デジタルなサービス (MaaS)**

◆MaaSで実現したいサービス

リアルな交通ネットワーク改善 ◆今までも、これからも

- ・駅とまちの一体的整備
- ・輸送の改善
- ・バリアフリー設備整備
- ・交通結節点整備
- ・運行情報の提供
- ・東京を楽しむ情報の提供
- ・ビジネス、ファミリー向けサービスの提供



## 安心の提供

「安心=安全+サービス」の考えのもと、  
優れた技術力と創造力により、  
安全で快適な世界トップレベルの輸送サービスを提供していきます。

駅ホームの安全性向上  
セキュリティの強化

ホーム上の事故0を目指し、2025年度までに全駅へのホームドア整備を進めます。  
また、テロ行為や犯罪に備え、さらなるセキュリティレベルの向上を図ります。

ホームドアの整備

- お客様のホームからの転落事故や列車との接触事故を防止するため、引き続き全駅へのホームドア整備を進めます。
- 2020年度においては計4路線13駅で設置を完了し、2020年度末に整備率83%を予定しています。

各路線ホームドア整備計画

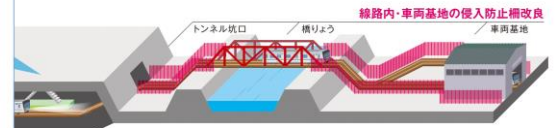
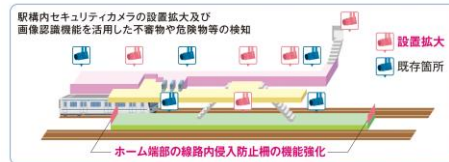
路線	現時点の進捗状況	2020年度整備計画	完了予定年度
銀座線	95% 整備済	渋谷駅整備完了に伴い全駅整備完了予定	—
日比谷線	2020年度整備開始	虎ノ門ヒルズ駅等 計6駅整備予定	2022年度
東西線	35% 整備済	大手町駅等 計3駅整備予定	2025年度
半蔵門線	57% 整備済	三越前駅等 計3駅整備予定	2023年度
丸ノ内線			
千代田線			
有楽町線			
南北線			
副都心線			
全駅整備済※			

※千代田線は2019年度末、霞ヶ関駅（3月下旬予定）をもって整備完了予定。

2020年度末 整備率83%予定  
(2019年度末 整備率76%)

セキュリティの強化

- テロ行為や犯罪に備え、駅構内セキュリティカメラの更新・増設、車内セキュリティカメラの設置拡大を推進します。
- 安全・安定運行のため、ホーム端部の線路内侵入防止柵の機能強化を図るとともに、線路内・車両基地の侵入防止柵を改良し、セキュリティの強化を図ります。
- サイバーテロの脅威に備え、セキュリティを強化します。



2020年度  
駅構内セキュリティカメラの更新・増設 完了予定  
ホーム端部の線路内侵入防止柵の機能強化 完了予定 ※一部駅を除く

2022年度  
線路内・車両基地の侵入防止柵改良 完了予定

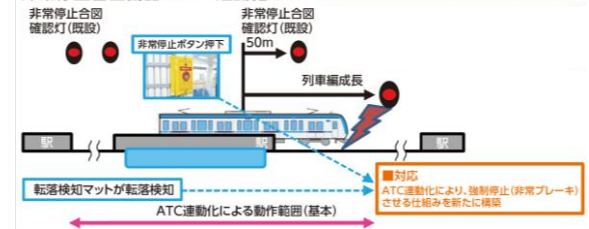
さらなる駅ホームの安全性向上施策

- 必要な箇所・時間帯における駅社員・警備員の配置や「声かけ・サポート」運動の実施等により、「見守る目の強化」を行います。
- 非常停止ボタンの操作時に自動的に列車が停止する仕組みの整備を全路線で推進します。

2020年度 丸ノ内線・副都心線工事完了予定

2023年度 全線工事完了予定

非常停止合図機器のATC連動化イメージ



新型車両の導入

安全性・快適性の向上等を図るため、有楽町線・副都心線に新型車両17000系を導入します。日比谷線では新型車両13000系の導入を完了します。

新型車両の導入

- 走行安全性・車内快適性の向上等を図るため、有楽町線・副都心線に新型車両を導入します。
- 引き続き丸ノ内線、日比谷線に新型車両を導入するとともに、半蔵門線の新型車両の設計等を推進します。

有楽町線・副都心線新型車両導入開始

- Y 有楽町線
- F 副都心線



新型車両17000系イメージ

2020年度 4編成導入開始予定

2022年度 全21編成180両導入完了予定

その他の路線の新型車両導入の進捗



新型車両13000系

H 日比谷線

2020年度全44編成導入完了予定

M 丸ノ内線

2023年度全52編成導入完了予定

Z 半蔵門線

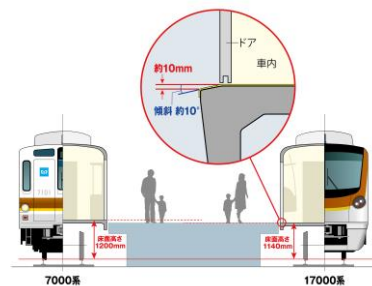
2021年度新型車両導入開始予定

安全・安定性向上／環境負荷低減

- ✓ TIMAシステム（車両情報監視・分析システム）を導入し、走行する車両の機器状態を、遠隔でモニタリング
- ✓ 万一の場合にも、自動で列車を停止させる脱線検知装置を搭載
- ✓ 車内のセキュリティ強化のため、車両内へセキュリティカメラを搭載
- ✓ 永久磁石同期モーターの採用による省エネルギー化

車内快適性の向上

- ✓ 既存車（7000系）と比較して、冷房能力を約1.2倍に向上・座席幅を拡大
- ✓ 全車両にフリースペースを設置
- ✓ 車両とホームの段差を低減



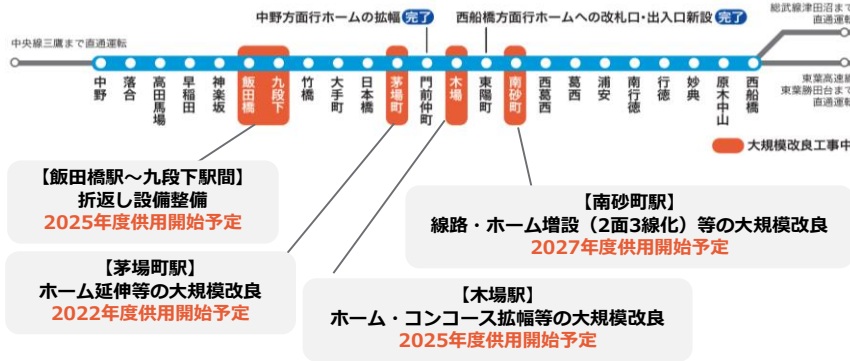
▲乗降イメージ

### 輸送サービスの改善

東西線大規模改良工事やオフピークプロジェクト等に引き続き取り組みます。日比谷線では有料座席指定列車「THライナー」の運行を開始します。

### 東西線の輸送改善

- 混雑率180%以下を目指し、飯田橋駅～九段下駅間の折返し設備整備や、南砂町駅の2面3線化ほか各駅の大規模改良等、総額約1,200億円の輸送改善プロジェクトを着実に実施していきます。



### オフピーク通勤・通学に向けた取り組み

- 混雑緩和、遅延抑制に有効な「オフピーク通勤（通学）※」のさらなる推進を図るため、東西線や混雑駅において、メトロポイントクラブを活用したオフピークプロジェクト等を推進します。

※オフピーク通勤（通学）：朝ラッシュのピーク時間帯前及び後の時間帯にご乗車いただくこと。

時間をずらして改札タッチで！

**オフピーク**

1日1回

豊洲駅 出場	運賃メトロ
7:00～7:30	ゴールドタイム 25ポイント ※最低15ポイント
7:30～8:00	シルバータイム 15ポイント ※最低10ポイント
9:30～10:30	ブロンズタイム 10ポイント ※最低5ポイント

+

あまり通って改札タッチで！

**中央改札**

1日1回

さらに

**10ポイント進呈!**

中央改札を7:00～10:30に出発した方

※改札をタッチした時間

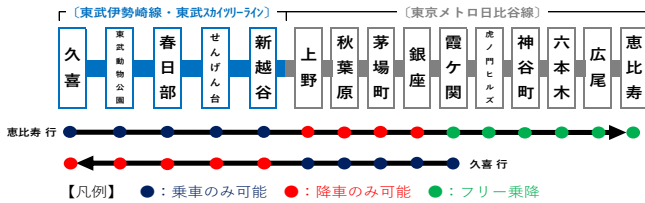
▲豊洲オフピークプロジェクト ポイント付与例

### 各路線での取り組み

#### 日比谷線

- 2020年6月6日（土）に、虎ノ門ヒルズ駅開業に合わせて日比谷線ダイヤ改正を実施し、朝・夕時間帯の霞ヶ関駅～中目黒駅間列車を増発します。
- 通勤・通学やお子様連れご家族などの都心への快適な移動ニーズに応えるため、東武線・日比谷線相互直通列車において、2020年6月6日（土）から、有料座席指定列車「THライナー」の運行を開始します。

2020年6月6日（土）THライナー運行開始予定



▲東武鉄道 新型車両 70090型

#### 有楽町線

#### 南北線

- 飯田橋駅におけるJR線ホームの位置変更に伴う混雑緩和対策として、出入口の新設工事を推進するとともに、改札機の増設を完了します。

2020年度改札機増設完了予定

2025年度新設出入口供用開始予定



▲（有）（南）飯田橋駅

## バリアフリー 設備整備

全てのお客様に安心してご利用いただけるよう、  
全駅へのエレベーター1ルート整備等バリアフリー設備の整備を進めます。

### 全駅へのエレベーター1ルート整備

- 高齢者やお身体が不自由なお客様にも、シームレスに安心してご利用いただけるよう、エレベーターによる1ルート整備の早期完成を目指します。

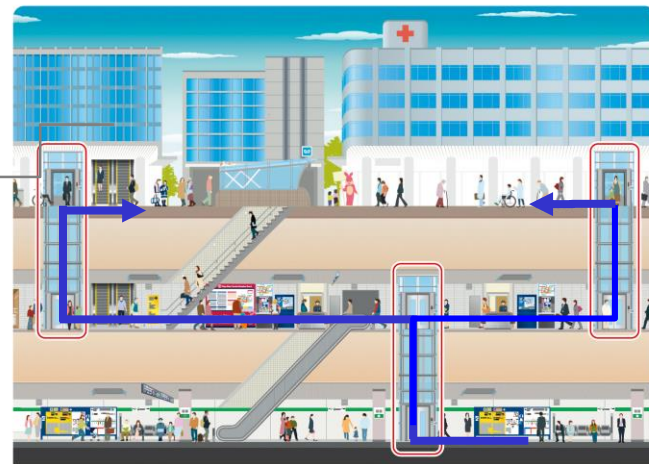
#### 2020年度整備予定駅

- G 銀座線** 末広町駅、上野広小路駅、虎ノ門駅、青山一丁目駅
- M 丸ノ内線** 大手町駅
- H 日比谷線** 仲御徒町駅、茅場町駅、虎ノ門ヒルズ駅
- T 東西線** 茅場町駅

2020年度 9駅完成予定 (整備率98%)  
(2019年度末 整備率93%)



▲エレベーター (東西線神楽坂駅)



### エレベーター複数ルート整備等

- 全駅へのエレベーターによる1ルート整備に加え、病院に近い駅や東京2020大会の会場最寄駅 (外苑前駅、青山一丁目駅) 等において、複数ルートの整備を推進します。

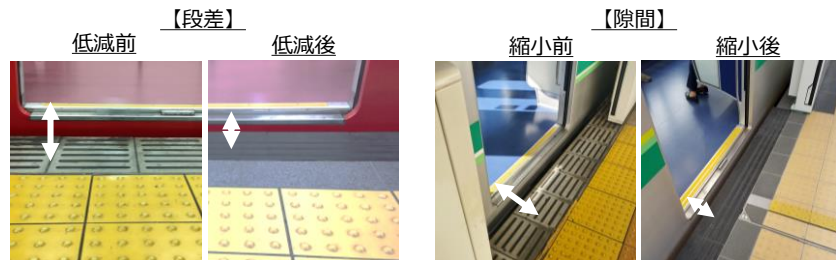
#### 2020年度整備予定駅

- G 銀座線** 外苑前駅、渋谷駅
- M 丸ノ内線** 銀座駅
- Z 半蔵門線** 青山一丁目駅

2020年度  
4駅完成予定

### ホームと車両床面との段差の低減・隙間の縮小

- 車いすをご利用のお客様等のより円滑な乗降を目的に、銀座線・丸ノ内線・千代田線の各駅や東京2020大会の会場最寄駅でホームと車両床面との段差の低減・隙間の縮小を進めます。



2020年度  
銀座線・丸ノ内線・千代田線の各駅及び会場最寄駅 対応予定

利便性・快適性の向上

【伝統×先端の融合】をコンセプトに、銀座線リニューアルを推進します。その他の駅空間整備にも引き続き取り組み、利便性・快適性の向上を図ります。

銀座線リニューアル

- 「地上にもっとも近い地下鉄」として、駅に降りた時から街の雰囲気を感じ、より快適にご利用いただくため、【伝統×先端の融合】をコンセプトに、銀座線リニューアルを推進していきます。
- 銀座駅をはじめ、東京2020大会会場最寄駅である外苑前駅や青山一丁目駅など計5駅のリニューアルを完了します。



リニューアル前（銀座駅）



リニューアル後イメージ（銀座駅）



- : 2020年度リニューアル完了予定
- : リニューアル完了済み

ご案内の強化

- 訪日外国人のお客様や不慣れなお客様を含め、すべてのお客様が快適にご利用できるよう、有楽町線池袋駅に旅客案内所を増設します。

2020年4月 (有) 池袋駅増設予定



▲旅客案内所

乗換駅の追加設定

- 新たに乗換駅を設定し、ネットワークの利便性を向上します。
- 不慣れなお客様やお身体が不自由なお客様にも安心してご利用いただけるよう、改札外乗換時間を30分から60分に延長します。

新たに設定する乗換駅



2020年6月 実施予定

東京の地下鉄のサービス一体化

- 九段下駅において、東京都交通局との3線共通改札口を供用開始しました。

2020年3月14日 開始



▲九段下駅





# 持続的な成長の実現

積極的な事業展開や新技術の

開発・導入によって収益基盤を強化し、

将来にわたる持続的な成長を実現していきます。

## お客様ニーズをとらえた取組み

多様化するお客様のニーズを的確にとらえ、東京へのお出かけをより楽しんでいただける取組みを進めます。

### 新たな企画乗車券の発売

- 東京へのお出かけをより手軽にお楽しみいただくため、東京メトロ24時間券・Tokyo Subway Ticket・東京フリーきっぷをIC企画乗車券でも発売します。

発売開始時期

IC企画乗車券一覧

2020年3月14日発売

東京メトロ24時間券

Tokyo Subway Ticket

東京フリーきっぷ

### 東京メトロ24時間券

発売金額

大人600円、小児300円

磁気企画乗車券



▲東京メトロ24時間券イメージ

IC企画乗車券



▲東京メトロ24時間券（IC）イメージ

### Tokyo Subway Ticket

<24時間券>：大人 800円、小児400円  
<48時間券>：大人1,200円、小児600円  
<72時間券>：大人1,500円、小児750円



▲Tokyo Subway Ticketイメージ



▲Tokyo Subway Ticket（IC）イメージ

#### 【各企画乗車券の概要】

東京メトロ24時間券：東京メトロ線全線が24時間乗り降り自由な乗車券。\*1  
Tokyo Subway Ticket：東京メトロ線全線と都営地下鉄線全線が24時間・48時間・72時間乗り降り自由な旅行者向け乗車券。\*2  
東京フリーきっぷ：東京メトロ線全線、都営地下鉄線全線、都バス（多摩地域を含む）、東京さくらトラム（都電荒川線）、日暮里・舎人ライナー、JR線（都区内）が1日乗り降り自由な乗車券。

\*1:磁気企画乗車券とIC企画乗車券では有効開始時刻が異なる。（磁気企画乗車券：使用開始時刻から24時間、IC企画乗車券：購入時刻から24時間）  
\*2:磁気企画乗車券とIC企画乗車券では有効開始時刻が異なる。（磁気企画乗車券：使用開始時刻から24時間・48時間・72時間、IC企画乗車券：購入時刻から24時間・48時間・72時間）

## 「Tokyo Subway Ticket」をQRコードにより旅行者向け券売機で発券するサービス

- 訪日外国人旅行者及び一部国内旅行者がオンライン旅行代理店等で「Tokyo Subway Ticket」をオンライン決済し取得したQRコードを、東京メトロ及び都営地下鉄の主要駅に設置している旅行者向け券売機のQRコードリーダーにかざすことで、駅の営業時間中であればいつでも「Tokyo Subway Ticket」を発券できます。

2020年3月14日 サービス開始

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

### モバイルPASMO開始

2020年3月18日 サービス開始

- PASMO協議会は、Android™スマートフォンにおいて交通系ICカードPASMOのサービスを開始しました。対応端末（Android™スマートフォン）に専用のアプリをインストールすることで東京メトロ線への乗車やチャージ、定期券の購入が可能になります。

※PASMO、モバイルPASMOは株式会社バスモの登録商標です。  
※AndroidはGoogle LLCの商標です。



関連事業の拡大

東京メトログループの成長のエンジンとして、  
鉄道事業とのシナジー効果の発揮を基本とした  
各事業の積極的な展開により、収益力向上に取り組んでいきます。

不動産事業

- 地下空間と一体となった建物を整備するなど、街の特性と調和した開発を推進し、関連事業の「地下から地上へ」の展開を進めます。
- 既存物件についても、収益力の向上を図ります。

営業開始時期	案件一覧
2019年度開業	PMO新宿御苑前 渋谷スクランブルスクエア（東棟） ※東急（株）、東日本旅客鉄道（株）との共同事業
2020年度開業予定	メトロシティ六本木



▲メトロシティ六本木イメージ

広告・情報通信事業

- デジタルサイネージ媒体の増設を進めるほか、様々な広告媒体の企画提案力を高めることにより、収益力の向上やビジネス領域の拡大を図ります。

Metro Concourse Vision



2020年度  
2駅60面設置予定  
(累計20駅672面設置予定)

Tokyo Metro Vision



2020年度  
10編成設置予定  
(累計292編成設置予定)

流通事業

- 駅工事等により創出されたスペースの開発を実施し、駅の利便性向上を図ります。
- 駅構内商業施設・売店及び高架下商業施設等のテナント入替やリニューアル等を適宜行い、収益力の維持・向上を図ります。
- 海外発行カード対応ATMや大型コインロッカーの設置等、訪日外国人のお客ニーズにもお応えするサービスを積極的に提供していきます。

営業開始時期	案件一覧
2019年度開業	明治神宮前メトロピア新規区画 (千) 大手町メトロピア新規区画
2020年度開業予定	6月 有楽町メトロピア
	7月 Echika fit 銀座リニューアル
	12月 北綾瀬駅高架下店舗



▲Echika fit 銀座リニューアルイメージ



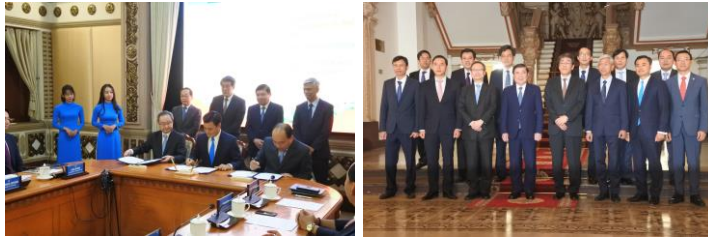
▲北綾瀬駅高架下店舗イメージ

海外での事業展開  
新規事業の創出・推進  
新技術の開発・導入

海外での事業展開や社会の変化をとらえた新たな事業を推進するとともに、  
新技術の開発・導入によって、持続的な企業価値の向上を図ります。

### 海外での事業展開

- 2020年2月、ベトナム・ホーチミン市都市鉄道管理局及びホーチミン市都市鉄道1号線運営会社と友好・協力に関する覚書を締結し、ホーチミン市都市鉄道事業への支援を進めます。



▲ベトナム・ホーチミン市都市鉄道管理局及びホーチミン市都市鉄道1号線運営会社との友好・協力に関する覚書 締結式の様子

### 新技術の開発・導入

#### 設備状態監視の充実 (CBM : 状態基準保全)

- 世界トップレベルの鉄道運営・保守を実現するため、既に一部設備で導入している状態監視技術の展開及び最新のセンシング技術やIoT技術を活用した新たな状態監視技術の開発に取り組み、CBMの基礎である設備状態監視の充実を図ります。

#### ドローンを用いた検査体制

- 非GPS環境下において、ドローンを活用したトンネル検査を実施するとともに、画像認識技術やAI技術を活用した自律飛行型ドローンの安全性・正確性を検証し、自律飛行を目指します。

### 新規事業の推進

#### 個室型ワークスペースの設置

- 富士ゼロックス (株) と共創した、多様な働き方に寄り添った個室型ワークスペース「CocoDesk」の駅構内設置を拡大します。

2020年2月開始  
合計80台設置予定 (2020年度末)

#### 既存事業の展開

- 引き続き、子ども向けロボットプログラミング教室「東京メトロ×プログラボ」やアウトドアフィットネスクラブ「greener」、キッズスペース併設ワークスペース「room EXPLACE」の運営に取り組みます。



▲ CocoDesk外観

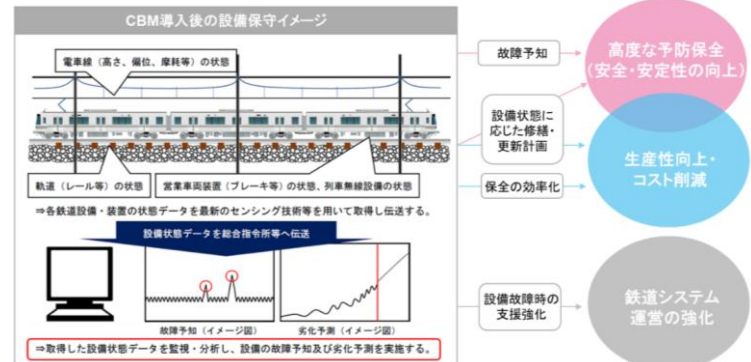


▲ CocoDesk内観

※CocoDeskは富士ゼロックス株式会社の登録商標です。



▲アウトドアフィットネスクラブ「greener」



▲CBM導入後の保守イメージ



# 東京の魅力・活力の共創

地域や外部との積極的な連携を通じて、  
東京2020大会の成功につなげるとともに、  
その先の東京の発展も見据え、都市としての魅力・活力の創出と  
東京に集う人々の生き活きとした毎日に貢献していきます。

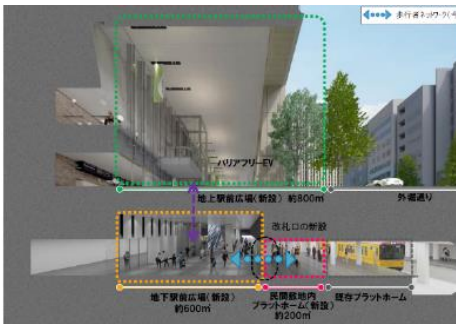
まちづくりとの連携  
オープン  
イノベーションの推進

駅周辺で計画されている都市開発と一体となった鉄道施設整備を推進します。  
また、東京メトログループの保有する経営資源と  
外部のアイデア・技術との組み合わせによる新たな事業や価値を創出します。

銀座線虎ノ門駅周辺開発と連携した駅改良

- 虎ノ門駅前地区再開発事業において、建物の中に駅前広場の整備や、渋谷方面行ホームの拡幅を行い、供用を開始します。
- 既存出入口の混雑緩和のため、出入口の新設等を行うとともに、エレベーター・エスカレーター等、新たなバリアフリー設備も整備します。

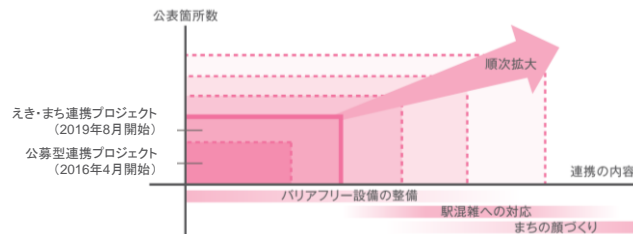
2020年度 供用開始予定



▲完成イメージ

えき・まち連携プロジェクト

- バリアフリー設備の整備だけでなく、駅混雑等の各駅の抱える課題を公表し、行政や都市開発事業者等に早期の段階で当社から働きかけることで、魅力的な地下鉄駅空間を整備します。



Tokyo Metro ACCELERATOR プログラム実施

- 「Tokyo Metro ACCELERATOR2019」の最終審査を通過したスタートアップ企業とパイロット施策を実施する等、幅広い外部連携等を通じ、新たな事業領域に積極的に挑戦していきます。

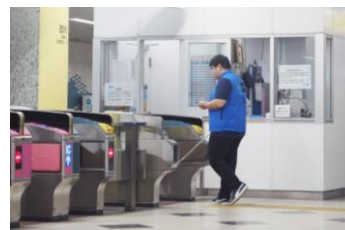


▲「Tokyo Metro ACCELERATOR2019」最終審査の様子

視覚障がい者向け駅構内ナビゲーションシステム「shikAI」導入駅拡大

- 視覚障がい者向け駅構内ナビゲーションシステム「shikAI」(シカイ)※導入に向けた最終検証を2019年8月末から約1か月間、有楽町線新木場駅及び辰巳駅構内で実施しました。今後はアプリの一般公開駅の順次拡大を進めます。

※プログレス・テクノロジーズ株式会社と共同で実施



▲実証実験の様子



▲QRコード設置イメージ

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

# 経営基盤の強化



ESGの視点も踏まえ、3つのキーワードの実現を確かなものとするため、  
経営基盤の強化を図っていきます。

また、事業を通じて社会課題の解決に取り組み、SDGsの達成に貢献し  
ていきます。

「安心の提供」「持続的な成長の実現」「東京の魅力・活力の共創」の実現を確かなものとするため、経営基盤の強化を図っていきます。  
また、事業を通じて社会課題の解決に取り組み、SDGsの達成に貢献していきます。

## オープンで生き活きとした企業風土づくり

- 健康経営を実現すべく、歩数イベント開催等の社員向け施策の実施により、社員及びその家族の心身の健康増進を図ります。
- 社員の治療と仕事の両立を支援するため、先進医療補償制度を導入します。
- RPAなど新技術を活用し、事務作業等の生産性を向上します。



BE MY BEST



WORKX LIFE SMILE ACTION ~社員一人ひとりの最大活躍のために~

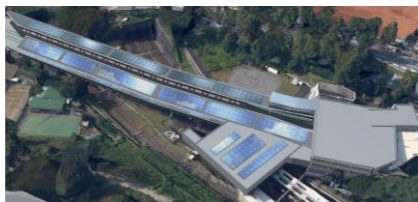


2020  
健康経営優良法人  
Health and productivity  
ホワイト500

## 環境保全活動

- 長期環境戦略に基づき、お客様や沿線地域とともに事業活動を通じた環境負荷低減を図り、環境保全に関する取組みをより一層推進します。

2020年度 太陽光発電システム  
四ツ谷駅 設置完了予定



▲太陽光発電システム（四ツ谷駅）イメージ

## 社会貢献活動

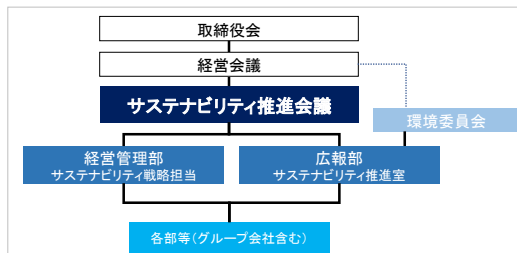
- 2020年4月に女子駅伝部（愛称『東京メトロマーキュリー』）を創設し、クイーンズ駅伝の制覇を目指します。また、東京大学スポーツ先端科学技術拠点との共同研究を通じ、科学的視点からのチーム強化を図ります。

2020年4月 創設予定



## SDGs達成への貢献

- 東京メトログループのサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の特定に向けて、社長を議長とするサステナビリティ推進会議で議論を進めており、2020年秋までにサステナビリティ経営の方針を公表する予定です。
- また、グループ社員の一人ひとりがSDGsを意識することを目指し、SDGsに関する社内外の活動をより一層加速させていきます。



▲サステナビリティ推進体制



▲社内向けSDGsセミナーの様子

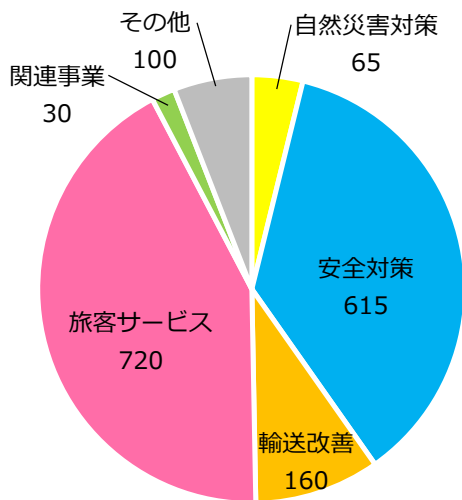


## 2020年度 設備投資予算

2020年度は、1,690億円の設備投資を計画しています。

### 2020年度設備投資予算

2020年度設備投資予算（単体） 1,690億円

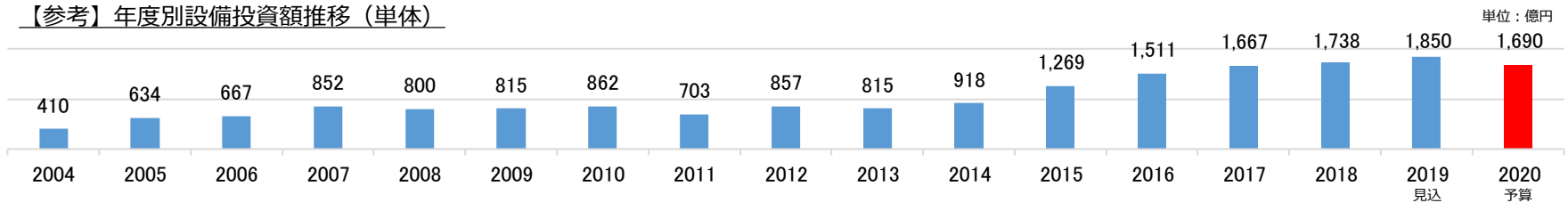


単位：億円

単位：億円

項目	2020年度予算	主な案件
自然災害対策	65	大規模浸水対策、震災対策
安全対策	615	
保安度向上	270	信号設備更新、列車無線デジタル空間波無線化、セキュリティカメラ機能強化
車両更新	190	有楽町線・副都心線、丸ノ内線、半蔵門線
ホームドア整備	115	日比谷線、東西線、半蔵門線
その他	40	通信設備更新
輸送改善	160	南砂町駅改良、飯田橋駅～九段下駅間折返し設備整備
旅客サービス	720	
バリアフリー整備	290	エレベーター・エスカレーター整備、バリアフリー整備用地取得
駅空間整備	300	駅改装、銀座線渋谷駅移設
その他	130	駅冷房増設・更新、自動旅客案内装置リニューアル
関連事業	30	Echika fit 銀座リニューアル
その他	100	LED照明改良、太陽光発電システム設置

### 【参考】年度別設備投資額推移（単体）



●東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー（旅客鉄道輸送サービス）です。



※注意事項  
ここに掲載されている情報のうち、過去の実績以外のものは将来の見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。  
したがって、実際の業績はこれらと異なる結果になる場合がありますことをご了承ください。